

トマト施設栽培におけるタバコカスミカメを用いた コナジラミ類の防除効果

園芸部 野菜第一係 須藤美貴

1 成果の概要

トマト施設栽培における、土着天敵タバコカスミカメによるコナジラミ類の防除効果を2箇年検証した。その結果、タバコカスミカメの導入によりコナジラミ類の増加が抑制され、防除効果が認められた。

2 背景、目的

トマト栽培において、コナジラミ類により媒介されるトマト黄化葉巻病は深刻な病害であり、薬剤抵抗性を有するタバココナジラミバイオタイプQの発生が問題視されている。

薬剤のみに頼らない防除方法が検討されるなか、コナジラミ類の天敵としてタバコカスミカメが有効である事例が西日本を中心に報告されている。そこで、トマト施設栽培において、バンカー植物（クレオメ）を併用し、タバコカスミカメの導入によるコナジラミ類の防除効果を2箇年検証した（供試品種：「桃太郎ホープ」、「麗容」）。また、タバコカスミカメによるトマトへの加害も報告されていることから、加害程度についても調査した。

3 成果

(1) コナジラミ類の生息頭数推移

2020年試験においては、天敵（タバコカスミカメ）放飼区、対照区（無放飼区）共にコナジラミ類は5月下旬以降に増え始めた。6月中旬には天敵放飼区における成虫の生息数が対照区を上回ったが、7月中旬には幼虫、成虫共に増殖が抑制された（図省略）。

2021年試験においては、両区とも6月上旬からコナジラミ類は増え始めたが、6月下旬以降には天敵放飼区においては対照区に対し幼虫、成虫共に増殖が抑制された。

なお、本天敵利用によるコナジラミ類の防除体系には、選択性農薬の利用が必要となることから、天敵放飼区においては天敵に影響の少ない農薬を利用した。

(2) タバコカスミカメによるトマトの加害状況

2箇年の調査で、茎葉における吸汁被害はほとんどの調査対象株で確認されたが、主茎が折れる被害はなかった。果実については、収量に影響を及ぼす着果数に有意差はなかった。なお、加害痕と思われる白い斑点が7月上旬頃から一部の果実で確認されたが、果実の出荷に大きな影響を及ぼすものではなかった。

4 成果の普及、活用方法

本研究の成果については関東東山病害虫研究会の論文に投稿されており、県内外でトマト施設栽培におけるコナジラミ類の防除に活用が可能である。

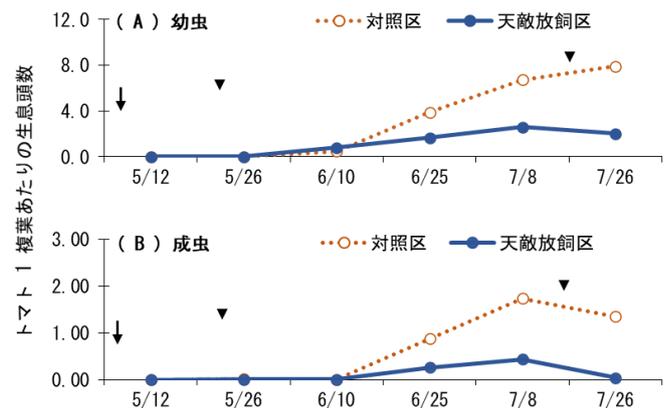


図1 コナジラミ類の生息頭数推移(2021年)
▼: コナジラミ対象薬剤散布日 ↓: タバコカスミカメ放飼日